

平成31年3月13日
愛媛大学

平成30年度事前復興フォーラム

7月豪雨災害を教訓に南海トラフ地震の事前復興を考える

平成30年7月5日から8日にかけて西日本一帯を襲った「平成30年7月豪雨」は、愛媛県に極めて甚大な被害の爪痕を残しました。

本フォーラムは、7月豪雨災害を教訓に南海トラフ地震の事前復興についての基調講演や愛媛県宇和海沿岸5市町の市長・町長がパネリストとして参加するパネルディスカッションなど、地域の防災意識を高めるプログラムとなっています。

このたびの豪雨災害で命を落とされた方々への鎮魂と被災された皆様の一刻も早い生活再建を祈念するとともに、今回の教訓が南海トラフ地震へ立ち向かう事前復興の活動に十分に活かされ、市民・町民と行政、大学が一体となって取り組むことを誓う場といたします。

つきましては、地域へ広く周知いただきますとともに、取材くださいますようお願いいたします。

記

日時 : 平成31年3月23日(土) 10:00~17:00 (受付9:30~)

午前の部 10:00~12:00 午後の部 13:00~17:00

場所 : 宇和島市立南予文化会館 中ホール (宇和島市中央町2丁目5番1号)

プログラム : 別添チラシのとおり

主催 : 愛媛県、宇和島市、八幡浜市、西予市、伊方町、愛南町

愛媛大学防災情報研究センター、東京大学復興デザイン研究体

対象 : 一般の方

定員 : 500人(当日参加可)

参加費 : 無料

参加申込方法 : 件名は、「事前復興フォーラム申込」として、

①氏名 ②連絡先(TEL、e-mail等) ③居住地 ④職業を記載のうえ、

3月18日(月)までに、事務局までメールまたはFAXでお申し込みください。

その他 : 駐車場 : 有(150台無料)

※送付資料3枚(本紙を含む)

本件に関する問い合わせ先

防災情報研究センター 教授 山本浩司

TEL/FAX 089-927-9021

Mail: kensien@stu.ehime-u.ac.jp

HP: <http://www.cee.ehime-u.ac.jp/~rd/>

南海トラフ地震事前復興共同研究

平成30年度 事前復興フォーラム

～7月豪雨災害を教訓に南海トラフ地震の事前復興を考える～

その日に備え、強く立ち向かうために
今から考えておくこと、それが「事前復興」

主催：愛媛県、宇和島市、八幡浜市、西予市、伊方町、愛南町
愛媛大学防災情報研究センター、東京大学復興デザイン研究体

日時：平成31年3月23日(土) 受付9:30～ 午前の部10:00～12:00 午後の部13:00～17:00

会場：宇和島市立南予文化会館 中ホール (宇和島市中央町2丁目5番1号)

参加費：無料、どなたでも参加できます(定員500名)

(3月18日までにお申込ください。※当日も受付けますが、満席の場合は入場をお断りする場合があります)

駐車場：150台(無料、※詳細は下記のホームページでご確認または事務局へお問合せください)

【午前の部】 学生が考える宇和海沿岸地域の小さな事前復興プラン

(東京大学・愛媛大学院生の提案報告)

10:00 開会挨拶と趣旨説明

10:10 小さな事前復興プランと防災プランの発表、講評、セレクション

【午後の部】 南海トラフ地震事前復興フォーラム

13:00 開会挨拶

愛媛県防災安全統括部長 福井琴樹

第1部：南海トラフ地震事前復興共同研究報告

13:05 研究の取り組み

愛媛大学 防災情報研究センター長・教授 森脇 亮

13:20 平成30年度活動からの報告

愛媛大学・東京大学

第2部：7月豪雨災害を教訓に南海トラフ地震の事前復興を考える

14:30 基調講演：南海トラフ事前復興に向けた課題と展開

東京大学 教授 羽藤英二

15:15 報告講演：西予市の復興プロセス

愛媛大学 教授 松村暢彦

15:40 討 論 ～宇和海沿岸地域のトップリーダーと事前復興を考える～

コーディネータ：愛媛大学 特命教授 矢田部龍一

パネリスト：宇和島市長 岡原文彰、八幡浜市長 大城一郎、西予市長 管家一夫、
伊方町長 高門清彦、愛南町長 清水雅文、羽藤英二、松村暢彦、森脇 亮

17:00 閉会挨拶

愛媛大学 宇和海沿岸地域事前復興デザイン研究センター長・准教授 全 邦釘

■参加申込み・お問合せ

「事前復興フォーラム参加申込」と明記のうえ、氏名、連絡先(TEL)と居住地(宇和島市・八幡浜市・西予市・伊方町・愛南町・その他)、職業(会社員・公務員・自営業・農家・漁業・学生・主婦・その他)を添えて、下記へEmailまたはFAXでお申込みください。

送付先：Email kensien@stu.ehime-u.ac.jp / FAX 089-927-9021

ホームページ：<http://www.cee.ehime-u.ac.jp/~rd/>

事務局：愛媛大学 宇和海沿岸地域事前復興デザイン研究センター TEL 0894-35-6851 / 防災情報研究センター TEL 089-927-9021

開催趣意

平成 30 年 7 月 5 日から 8 日にかけて西日本一帯を襲った「平成 30 年 7 月豪雨」は、愛媛県に極めて甚大な被害の爪痕を残しました。今回の豪雨による浸水氾濫と土砂災害は、多くの人命と人々の生活の場を短時間のうちに奪い去りました。それから数ヶ月の時間（とき）が経ち、暑い夏が過ぎた頃には復旧作業やボランティア支援などが進み、地域には少しずつ落ち着きが戻ってきました。そしてこれからは、被災地域の安全と生活再建のための“復興”へと時間軸が向かっていきます。しかしながら、今回の豪雨災害は、被災後の速やかな復興を目指すために被災後の生活再建や市街地復興等についてあらかじめ想定しておくという“事前復興”の考えが行政や地域の皆さんに浸透する前に遭遇したものでした。そのため、新たなまちづくりにも匹敵するような復興への道程は、その手順が未知のままに数々の課題へ対処しなければならぬという困難さを呈しています。

一方で、今回の豪雨災害をはるかに超える被害が想定される「南海トラフ地震」の発生が数十年後に迫っていると言われてしています。この南海トラフ地震による被害がかつて経験のない最悪な事態となるかは確定的ではありませんが、今回の豪雨災害を大きく超えるものとなることは確実です。その日がいつの時点で訪れようと、それがどのような規模であろうと、我々は、迅速性と即効性をもって復興までの取り組みに対処しなければなりません。しかし、経験のないことへの対処は困難を極めます。そのときに最良な選択がなされるとも限りません。そのためにも、今回の豪雨災害における多くの経験と教訓は、決して忘れ去ることなく、来る南海トラフ地震への事前復興に確実に活かされねばなりません。

本フォーラムは、このたびの豪雨災害で命を落とされた方々への鎮魂と被災された皆様の一刻も早い生活再建を祈念するとともに、今回の教訓が南海トラフ地震へ立ち向かう事前復興の活動に十分に活かされ、市民・町民と行政、大学が一体となって取り組むことを誓う場といたします。

南海トラフ地震事前復興共同研究

南海トラフ沿いでは、これまでおおむね 100 年～150 年の周期で大規模地震が繰り返し発生し、今後 30 年以内に南海トラフ地震が発生する確率は 70～80%であるとされています。「南海トラフ地震事前復興共同研究」は、東日本大震災以上の災害ともなりうる最大クラスの南海トラフ巨大地震による大規模災害の可能性に対処するために、巨大津波災害が想定されている愛媛県の宇和海沿岸 5 市町（宇和島市、八幡浜市、西予市、伊方町、愛南町）と愛媛県、愛媛大学、東京大学が共同で事前復興デザイン研究に取り組むものです。本研究は平成 30 年度から 3 年間の予定で活動を行います。

<http://www.cee.ehime-u.ac.jp/~rd/>

参加申込書

平成 30 年度 事前復興フォーラム ～7 月豪雨災害を教訓に南海トラフ地震の事前復興を考える～

Email : kensien@stu.ehime-u.ac.jp (※メールに以下の内容を打ち込んで送信してください)

FAX : 089-927-9021 (※この申込用紙をお使いください)

お名前	連絡先（電話 or Email）	居住市町（○で囲む）	職業（○で囲む）
		宇和島市・八幡浜市・西予市・伊方町・愛南町・その他	会社員・公務員・自営業・農家・漁業・学生・主婦・その他

※お送りいただいた情報は、本フォーラムに関する取組み以外に使用することはありません。

※駐車場(無料)を使用される方は、ホームページ (<http://www.cee.ehime-u.ac.jp/~rd/>) でご確認または事務局へお問合せください。